

札幌開建と札幌協が意見交換会

人材確保で課題認識を共有

解決に向け協力・連携



いくことを申し合わせた。

札幌開建からは石田悦一郎長や各次長など幹部職員七人、札幌協からは岩田会長と三副会長の計四人が参加。札幌開建の担当課長ら二人、札幌協事務局の村井悟専務理事と中嶋富男常務理事も同席した。

冒頭、あいさつに立った石田部長は、「地域づくりの大前提として安心・安全がある」と説明。国土、社会資本、建設産業の三つのメンテナンスが安心・安全

札幌開建は三日、道建設会館で一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)との意見交換会を開催した。写真。両者の幹部十一人が参加。人材の確保・育成について課題認識を共有し、双方が協力・連携のもとで課題解決に取り組んで

の確保に欠かせないとし、業界の協力を呼びかけた。

岩田会長は、担い手の育成・確保、ダンピング防止、品確法等の改正など、建設業界の持続的発展に向けた取組に期待を寄せた。

続いて、札幌開建が八月から実施している総合評価方式の改正概要を説明。札幌協からは、漫画による建設業のPR、橋梁補修・補強に関するマニュアルについて話題提供があった。

そのあと、人材の確保・育成を中心に、意見を交わした。札幌協側は土木学科のある高校が減少するなど、人材の確保が厳しい現状を指摘。開建側も技術者が定着しない状況も見られることを示し、両者がタイアップして課題解決を図っていく必要性について、共通理解を図った。

人材育成など課題確認

札幌開建と札幌建協 意見交換

札幌開建と札幌建設業協会は3日、北海道建設協会会館で意見交換した。建設側が10月の完成を目指



幹部同士で人材確保策などを話し合った

高校生向けの建設業PR漫画を手掛けていることを報告するなど、建設業の人材確保や育成に議論が集中した。

開建からは石田悦一郎長ら9人、建協からは岩田圭剛会長のほか、坂敏弘、平野良弘、宮永雅己の副会長3人、村井悟専務理事が出席。人数を抑えて幹部同士で重要課題を話し合った。

開建側は8月1日から適用している総合評価の

一部改正について話題提供。技術者の評価期間を過去6年に延長したことなど、工事数減少で近年の実績が乏しい企業への救済対策だと説明した。

これに対し建協側は、規制緩和により、受注者が集中する工事では業者間競争がさらに激化するのでは、との懸念を示した。

このほか建協側は、市内の高校で土木科・建築科など建設業関連の学科を持つのが札幌工高だけになったことを挙げ、人

材確保の厳しさに言及。この事態を受け、建設業をPRするための漫画を、専門工事業団体や札幌商工会議所と共同制作中で、10月に出版する予定となっていることを伝えた。

人材確保が難しいのは開建も同じとの声が上が。り、世代間ギャップが大きい組織構成になつてしま、新人が定着できない労働環境になっている現状は官民に共通していること確認。喫緊の課題に共同で取り組むことを申し合わせた。